

2022年2月27日(日)

言語文化教育研究学会 第81回例会

# 模擬授業指導から考える

## —理論と実践の関係と教師教育者の 専門性—

後藤賢次郎(山梨大学) [kgotoh@yamanashi.ac.jp](mailto:kgotoh@yamanashi.ac.jp)  
齊藤仁一郎(東海大学) [jsaitoh@tokai.ac.jp](mailto:jsaitoh@tokai.ac.jp)

「学校教育における模擬授業指導の現状」  
(レビュー編)

# 「学校教育における模擬授業指導の現状」 (レビュー編)

## 分析方法

「社会科教育に関する模擬授業」に関わる論文を検索・吟味・収集したうえで、特徴に応じた類型化を行う。


## 該当した論考数

52本

## 類型

右図の通り

この【類型2】と【類型3】  
を中心に話します。



### 【類型1】

模擬授業の目的が不明瞭、もしくは自明視されている論考

### 【類型2】

指導技術育成を重視する論考

### 【類型3】

理論と実践・指導技術を一体で学ぶべきとする論考

### 【類型4】

その他(いずれにも該当しない論考)

# 【類型2】指導技術育成を重視する論考

## 【特徴】

- 模擬授業を行う目的や模擬授業指導の長所として、指導技術の育成を強調する立場を指す。（模擬授業だけをやった授業実践に対しては批判的）
- 指導技術育成という目的意識が強調され、社会科教育研究の理論的知見への言及がない

教育実習時の教科指導に直接影響を及ぼすため、「公民科教育法」では、実践的な模擬授業を行うことが不可欠である。・・・（中略：筆者）・・・時間の確保は、学生数とともに模擬授業を行う上で重要な前提であるが、模擬授業を行わせる事前の指導として、大学教官による模範授業ならびに教材研究、各種の具体的かつ詳細な指導も重要である。それも、伝えるための指導、理解させ・身に付けさせるための指導、生徒を引き込むための指導、生徒の動きに対応する指導など、教育現場に即した具体的かつ実践的な指導が行われることが望まれる。また、模擬授業を学生に行わせるとともに、模擬授業を行わない生徒役の学生たちには、模擬授業を体系的に洞察・分析できるように、観察能力を身に付けさせるべきである。教育実習校でのベテラン教師の授業観察から多くのものを学び取ることができ、また自らの授業構成に活かすことができるからである（山岡，2006，pp. 81-82.）。

教員は自己の知識や技能を生徒にわかりやすく伝える必要があるが、これは一定度のスキルが要求されるとともに、経験が大きくものをいう。実習の現場で教壇に立つ前に、どれだけ充実した授業経験をできるかが、実習の成否にも実習内容の充実にも大きな比重を持っている（白水，2017，p. 144.）。

随所に「模擬授業こそ授業づくりの中心である」という発想が見られる。

# 【類型3】理論と実践・指導技術を一体で学ぶべきとする論考

## 【特徴】

- 模擬授業の価値を認めつつ、その前段階の理論的学習との関連性や模擬授業にいたる段階性に焦点を当てる。
- 一方で、前半の「理論」が後半の模擬授業に具体的にどのように生きていくのかについて、詳細な説明がなされていない。

理論学習だけではわかりにくい授業の実際について学ぶことができることである。授業を実際に行ってみることによって、授業は授業案どおりにはいかないこと、いかないからこそ授業案をよく考えなければならないこと、授業では授業者のコミュニケーションスタイルが理論的に考えている以上に大きな影響をもつこと、などが経験できるし、観察してわかるのである(木下, 2010, p. 12)。

事例検討や授業作り、模擬授業を連携させることで、学生は、比較的長時間をかけて新たな知識や見方、考え方を身に付けながら、思考を深め、難しい中にもやりがいや達成感を感じていた。資料や映像教材に加え、判決書教材を活用することで、裁判所の事実確認と判断を学びつつ、同時に共感や実感など感性の側面から理解を深めるプロセスを経験できていた。この授業形態により、学生の多くは、仲間との関わりを通して自分の成長を実感し、見つめ直し、教師としての自覚、人としてのどう生きていくかを真剣に問うていた。このような学生の反応は、15回の講義内容を細切れに設定し、網羅的に指導法の内容を学習することでは、得難い大切な収穫である(真島・梅野, 2013, p. 187)。

# 【類型3】理論と実践・指導技術を一体で学ぶべきとする論考

例えば、佐藤(2019)は、模擬授業を実施するまでのプロセスを段階的に講じている。

社会科教育法の前半部分での理論学習と並行して、以下の三段階で構成している。

(1)「地域教材開発レポート」と題する1枚の景観写真を撮影し、写真から授業構想を考える段階



(2)「学習指導案レポート」と題する地域の文化材や年中行事を取り上げ、単元計画を重視した学習指導案を作成する段階



(3)本時の学習を重視した学習指導案を作成し、25分程度の模擬授業を行う段階

## 佐藤(2019)のシラバスの場合

- 1 社会科の学習課程
- 2 社会科の授業作りと教材研究
- 3 社会科の学習活動
- 4 教材開発レポートの発表・交流。学習指導案の作成①
- 5 社会科の教材研究、学習指導案の作成②
- 6 社会科学習指導案の検討
- 7 社会科の評価
- 8 優れた社会科授業に学ぶ
- 9 社会科模擬授業①(中学年①)
- 10 社会科模擬授業②(中学年②)
- 11 社会科模擬授業③(中学年③)
- 12 社会科模擬授業④(高学年①)
- 13 社会科模擬授業⑤(高学年②)
- 14 社会科模擬授業⑥(高学年③)
- 15 まとめ、テスト

# 参考文献(スライドで挙げた論文)

- 真島聖子・梅野正信(2013)「社会的課題と学校を結ぶ社会科・公民科指導法の開発研究」『日本教育大学協会研究年報』31, 181-190.
- 白水智(2017)「社会科・地歴科教育法における実践的模擬授業指導の試み」『中央学院大学人間・自然論叢』44, 144-162.
- 山岡昭吉(2006)「公民科教育法 「公民科教育法」の授業計画に関する一考察」『千葉経済論叢』34, 76-77.
- 佐藤浩樹(2019)「実践的指導力の育成を目指した小学校社会科教育法の授業のあり方と実践」『教育諸学研究』32, 9-17.